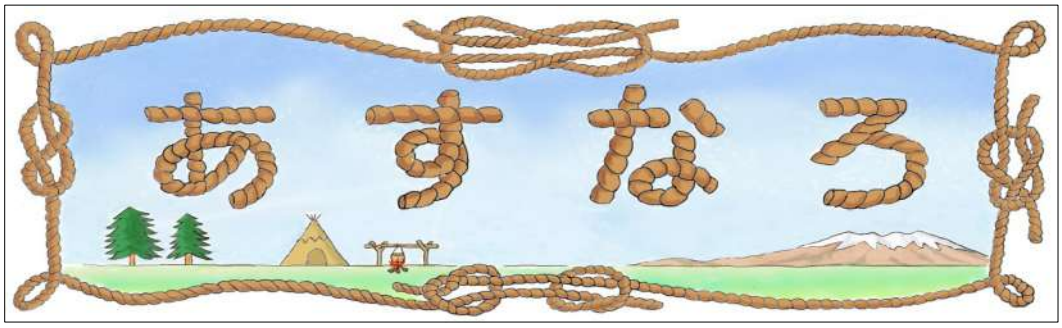

ボーイスカウト東京連盟
あすなろ地区 広報誌
第 １６号

2017年 9月 2日
組織拡充委員会

祝　団５０年章、隊褒彰綬の受章

6月29日（木）、地区協議会が阿佐谷地域区民センターで開催され、杉並8団は登録継続50年の団として、「団50年章」の旗が下地地区コミッショナーより授与され、登録継続50年の隊には「隊褒彰綬」、登録通算５か年ごとの「隊褒彰綬（環）」が以下の各隊に授与されました。

また、特別年功章５年が13名、特別年功章10年が5名、特別年功章15年が6名の方々に授与されました。

団50年章

杉並 ８団

隊褒彰綬

50年	杉並　3団	ベンチャー隊
50年	杉並　4団	ベンチャー隊
50年	杉並　6団	ボーイ隊
50年	杉並　8団	カブ隊

20年	中野　7団	ビーバー隊
30年	杉並 11団	ベンチャー隊
30年	杉並 13団	ベンチャー隊
35年	杉並　5団	ローバー隊
40年	中野 11団	カブ隊
40年	杉並　9団	ベンチャー隊
40年	杉並 11団	カブ隊
55年	中野　5団	カブ隊
55年	中野　5団	ボーイ隊
55年	杉並　4団	カブ隊
55年	杉並　4団	ボーイ隊
55年	杉並　5団	ボーイ隊

組織拡充目標達成団で表彰

杉並4団と杉並12団は、組織拡充目標達成団のＡランクとして、日本連盟から表彰状が授与されました。

Ａランクの団は、平成26年から28年の各年度末登録者で、スカウト数が65人以上、かつ指導者数が25人以上、団合計で90人以上の団で、全国25県連盟で100こ団あります。

菊、隼、富士スカウト章伝達

7月27日（木）、阿佐谷地域区民センターで開催された地区委員会に先立ち、以下の皆さんに菊スカウト章、隼スカウト章の伝達と、富士スカウト章記念品の授与が行なわれました。

菊スカウト章　　杉並９団　相澤岳琉、杉並９団　杉本 慈
隼スカウト章　　中野８団　福田陽介
富士スカウト章　中野11団　東條雅臣

地区ベンチャーフォーラム　「防災⇒減災へ、～明日にそなえて…」

7月23日（日）、あすなろ地区主催のベンチャーフォーラムが「防災⇒減災へ　～明日にそなえて、私たちが今出来ること～」をテーマにして、阿佐谷地域区民センターで開催され、各団のベンチャースカウト8名が参加しました。

開会式に続いて、緊張を解きほぐすゲームで２つのグループに分けたあと、討議がおこなわれました。

いつ起きるか分からない地震や津波などの災害が発生した場合でも、普段の備えや心構えがあれば、被害を最小限に抑えることができる「減災」の考え方が一般化しつつあることから、「そなえよつねに」をモットーにするベンチャースカウトとして、すべきこと、取り組むべきことなどについてグループで討議し、減災プロジェクトの具体的な計画を立案し、企業や関係機関への提言等についてとりまとめました。

また、今回のあすなろ地区ベンチャーフォーラムで討議された内容は、広く共有されるよう、中野5団の原口 輝さん、杉並11団の牛山明音さんは、9月2日～3日、練馬区立大泉中学校で開催された東京連盟ベンチャーフォーラムに参加して、各地区の代表スカウトとさらに討議を深めました。

ウッドバッジ事前課題研修会

7月8日（土）、阿佐谷地域区民センターで、秋に開設が予定されている研修所、実修所に参加を希望する指導者のため、ウッドバッジ事前課題研修会が開催されました。

研修会では、参加にあたっての心構え、提出書類、注意事項などについて説明が行なわれたあと、各コースに分かれて、事前課題についてのアドバイスなどが行なわれました。

ウッドバッジ研修所は、これまでカブ、ボーイなど、各課程別に開催していましたが、本年度より各課程共通の3泊4日のスカウトコースを受講した後、1日の課程別研修を受講することになり、より受講しやすくなっているため、多くの指導者の参加が望まれます。

救命、救急のための講習会で研修

6月25日（日）の午前中、「東京消防庁普通救命講習会」が中野消防署（中野区中央3丁目）で開催され、午後からは会場を中野区高齢者会館（中野区南台5丁目）に移して「スカウト救急法講習会」が開催され、あすなろ地区の27名のスカウトと3名の指導者が参加しました。

午前中の「東京消防庁普通救命講習会」では、救命に必要な応急手当としての心肺蘇生法、心臓マッサージ、人工呼吸、ＡＥＤの使い方などについて、ダミー人形を使った実習もおこなわれました。

ＡＥＤを実際に使う場合に備えて、普段からＡＥＤのある場所を確かめておくこと、ケガ人を止血する場合は血液感染防止のため、手にポリ袋をかぶせて使うこと、救急車を呼ぶべきか緊急性の判断がつかないときは＃7119を利用するなどの説明もありました。

また午後の「スカウト救急法講習会」では、ボーイスカウト技能章「救急章」の考査細目にそって、傷病者のケガの状況に応じて背負ったり、2人で左右をかかえて移動する方法、毛布の端を持って傷病者を搬送する方法や、担架での搬送方法などを実習し、急病、けがなどの手当や、止血法、三角巾や包帯の使い方などが行なわれました。

道心堅固の決意新たに ～山中野営場惜しまれつつ閉場～　地区委員長 佐藤武信

皆さんが、舎営、隊キャンプ、団行事、地区キャンポリー、更には年長隊富士野営、指導者研修等でお世話になった山中野営場に、8月20日(日)11時23分、最後の感謝を捧げる時間がきました。

1925(大正14)年に開場され、92年間、私たちに優しく、時には厳しかった野営場は門を閉ざしました。

ファイナルセレモニー第一部は佐野広場で行われ、私たちを見守っていた「道心堅固」の碑に、奥島理事長の手で幕が下ろされました。引き続き中央広場で行われたファイナルセレモニー第二部では、ご来賓として山中湖村教育長、富士急行関係者をお迎えし、アックスとスコップ、そして国旗掲揚索の返納式が執り行われました。続いて奥島理事長より関係者への謝辞、「高萩スカウトフィールドを活用して、更なる発展を目指す」との決意表明がなされ、参加者全員の「弥栄」三唱が山中の森影に木霊しました。

山中野営場閉場式は、二日間にわたって行われました。前日19日(土)は、10時に主要スタッフが集合し、最終打合せを経て、14時から野営参加者約40名と、15時から舎営参加者約100名を受付け、参加者は各自思い思いに場内を散策していました。心配された天気は、予想に反して日差しも差し込み、気持ちの良い日となりました。

19時からは富士見広場で大営火が行われ、「懐かしの森へ」など、思い出の歌を中心に皆が心を一つにして歌い、また野営場開場秘話のスタンツを愉しみ、奥島理事長のヤーンで永久の別れを告げました。

21時からは、大営火の残り火に照らされながら、グッバイパーティーが行われ、野営場の92年間の歴史のなかで、きっと最初で最後のアルコール公認のパーティーだったと思います。あちらこちらで話に花が咲き、最後の夜を満喫し、名残惜しいなか、22時にお開きとなりました。翌20日(日)8時30分より富士見広場で最後の朝礼、スカウツ・オウン・サービスを行い、9時から式典のみの参加者約50名を受付け、10時からのファイナルセレモニーとなりました。

私の所属する杉並11団は1978(昭和53)年に発団し、最初のキャンプは山中湖にある赤羽星美学園の寮の森で行われました。当時私は団委員長に連れられて、何もわからず山中野営場を案内されました。その後、1982年に研修所(当時)入所のため、再び野営場を訪れる機会を得ました。さらに1984年からは、研修所の所員として奉仕する機会を与えられて、毎年訪れることになりました。1988年には杉並地区10周年のキャンポリーが開催され、中央広場での大営火と野村地区委員長のヤーンの姿は、今でも目に焼き付いています。

心から「ありがとう、ありがとう、山中野営場」！！

開場の原点 大洞の泉

中央広場に差し込む日差し

受付準備作業

野営参加者のサイト

掲示板とわれはふくろうの歌碑

道心堅固の碑は那須野営場に移設

かがり火に照らされる参加者

最後の朝礼

ありがとう　そしてさようなら

浅草サンバカーニバルで奉仕

8月26日（土）、夏の浅草を代表するサンバカーニバルのパレードが開かれ、地元のさくら地区のほか、各地区のスカウトが参加し、あすなろ地区では杉並5団、中野5団、中野8団のスカウト、指導者の6名が参加しました。

当日は出発点の産業貿易センターに午前11時に集合し、さくら地区の担当者よりパレードや警備にあたっての注意事項の話を聞いたあと、団体名の記されたプラカードを持っての行進、横断歩道の誘導などの奉仕を行いました。

あすなろ地区スカウトは、プラカードと、伝法院通りとの交差点付近の交通整理を担当しました。

浅草のサンバカーニバルは今年で36回目で、50万人近くの観客が集まり、サンバの陽気な打楽器の音に合わせて、軽快なステップで踊子が練り歩きました。

台東区わんぱくトライアスロンで奉仕

8月27日(日)、台東区わんぱくトライアスロンが台東リバーサイドスポーツセンターを中心に開催され、あすなろ地区から中野5団、中野7団、中野8団のカブスカウト、リーダーの16名が参加しました。

わんぱくトライアスロンは今回で29回目で、小学4年生から6年生までの児童がエントリーし、プールでクロール、平泳ぎなど得意な泳ぎで100m、バイク３km、ラン２kmの合計タイムを学年別・男女別に競うものです。

参加したスカウトは、警備の注意事項などの話を聞いたあと、沿道の警備と閉会式のプラカード持ちなどの奉仕を行いました。

特集1 各団・隊の夏キャンプ

夏キャンプで富士山に登頂！

中野5団ボーイ隊 副長補　鈴木 千嘉良（ちから）

中野5団ボーイ隊とベンチャー隊は、8月13日～8月17日にかけて、1泊2日の富士登山を含めた4泊5日のキャンプを行いました。

初日は5時30分に中野サンプラザの前に集合。参加者はボーイ隊スカウト3名、ベンチャー隊スカウト1名、指導者2名、およびサポートとしてボーイ隊スカウトの父親2名の計8名です。

中野駅から電車を乗り継いで富士吉田駅に到着し、バスに揺られて富士山5合目に到着しました。高山への体慣らしや食事休憩を挟んだ後、10時半過ぎに吉田口ルートから7合目の山小屋を目指し、登山を開始しました。

雨は強かったものの、緩やかな傾斜が多く、岩場などの険しい場所がなかったため、全体的に足取りは軽く、予定していた時間よりもかなり早く7合目の山小屋に到着できました。

翌日は午前5時20分に山小屋を後にしました。出発してからの道のりは昨日よりも険しいもので、標高が高くなればなるほど酸素濃度が低くなり、険しい傾斜、尖った岩場が現れ、全体的に足取りをかなり重くし、さらに合羽を着ていてもしみこんでくる雨や、濃い霧(ガス)による視界の遮りが、かなり体力を奪っていきます。

しかし、ガスが時々晴れると視界が開け、そのとき見える雲海はとても美しい光景でした。昨日よりも多く休憩を取りながらの登頂となりましたが、約5時間半かけて頂上に立つことができました。

頂上付近で昼食を含めた休憩を1時間半ほど取った後、下山を始めました。

下山途中では参加者8人の大半が頭痛の症状を訴えました。また下り道は非常に滑りやすく、疲労のため転倒する者もいましたが、大きなけがもなく5合目まで、5時間足らずで下山することができました。また、高度が低くなるにつれて、頭痛も少しずつ治まってきました。

下山の途中に外国人男性と会い、吉田口バス発着場まで行くとのことで、一緒に下山をしましたが、吉田口入口の分岐点まで来たところで、岩にへたりこみ、辛そうな表情で「もう歩けない…」と訴えました。

脱水症状・低体温症の様子から、救急法訓練の成果を発揮して水分の補給、銀マットによる体温保持を行いました。同時にリーダーが搬送の相談のため救護所に向かいましたが、救護所では搬送は出来ないとの返事を持ち帰りました。

男性はしばらくすると、介助さえあれば歩行できる程度まで回復したので、肩を担ぐ者と、荷物を持つ者と分担して救護所まで搬送し、その後は救護スタッフに任せました。

バスで富士吉田駅まで降りると隊長が迎えに来ており、20時過ぎに山中湖村営キャンプ場にいるカブ隊スカウトや団委員の方々と合流することが出来ました。その夜は睡眠不足と疲労のため最低限の設営を行い、就寝しました。

翌日15日はキャンプサイトの設営の後、カブ隊を招待してボーイ隊主催の夕食会を行いました。

16日は山中湖周辺のハイキング、夕食は皆でバーベキューでした。残念ながら雨が降り続いて、キャンプファイヤーは炊事場の中で行うことになりましたが、いつも通り、雨に負けないぐらいの盛り上がりとなりました。

最終日は短い時間でしたが雨もやみ、その合間を縫って急いで撤営を行い、帰路につきました。

全期間を通じて、天候には恵まれないキャンプでしたが、無事全員が富士山に登ることができ、思い出深い楽しいキャンプとなりました。

杉並３団各隊の夏季キャンプ

団委員長　並木 明直

スカウト達に対するリーダーの情熱と、保護者の方々の協力により、各隊の夏季キャンプを無事に開催することができました。スカウトのニーズが多様化し、各隊のリーダーは普段ではできないプログラムを組み込むなど、以下の報告の通り、いろいろ工夫していました。

ビーバー隊

ビーバー隊 副長 太田 浩美

今年のビーバー隊の夏季行事は、奥多摩の中茶屋キャンプ場にでかけました。

キャンプ場の渓流に、男性リーダーとお父さん方にいけすを作ってもらい、マスのつかみ取りをしました。最初はつかめなかった子も、水しぶきをあげながら追いかけているうちに、徐々につかめるようになりました。

その後は自分たちでマスをホイル焼きにして、おいしくいただきました。

東京とは思えない豊かな自然に囲まれたキャンプでの経験は、スカウトにも良い刺激になったようでした。

カブ隊

カブ隊 副長　高地 由希恵

今年のカブ隊の夏キャンプは、「計画と実行」をテーマに活動することを目標にしました。このため大物の工作として、身近な２ℓのペットボトル100本をつないで、「いかだ」を作りました。西湖の湖面に浮かぶのか不安でしたが、スカウトたちが乗って無事に浮かんだ時は、本当に嬉しかったです。その後、竹製の水鉄砲で相手の的を撃ちぬくゲームをしました。

翌日は樹海をハイキングし、氷穴を見学しました。スカウト達は、普段の活動以上に生き生きとした、真剣な表情で各プログラムに挑戦し、今年の夏キャンプのテーマ通り、プログラムが実行できてよかったと思いました。

これからもカブ隊のスカウト、リーダーはお互いに協力しながら、カブ隊の活動を盛り上げていきたいと思います。

ボーイ隊

ボーイ隊 隊長　左奈田 将実

ボーイ隊の今年度のキャンプは、西湖のほとり、根場いやしの里の近くの私有地をお借りして行い、いかだを作成しました。キャンプ前は連日30度を超す猛暑のため、「猛暑だ。キャンプに行こう」をキャンプのテーマにして、暑さ対策のため、日よけ用のタープも新調し、麦わら帽子も用意しましたが、まさかの連日の雨でした。

そんな雨模様の中でも、スカウト達はハイキングを行い、作ったいかだを西湖に浮かべることができました。雨の中でのプログラムのため、充分に楽しむことは出来ませんでしたが、スカウト達の希望の多かった水辺でのプログラムを行うことが出来て、良かったと思っています。

今回のキャンプ前に、円卓でいかだ作りをしたいと話したところ、杉並９団さんから今回のキャンプ場を紹介いただき、救命胴衣も貸していただきました。また、阿佐谷七夕祭で使用した多数の竹材を杉並12団さんから提供いただき、皆様の協力でキャンプが順調に開催できたことを、改めて感謝いたします。

毎月開催されている円卓の場を活用したお互いの情報交換が、自隊の活動の充実に繋がることを実感しました。

ぜひ、皆さんも円卓に積極的に参加して、各団との交流を深め、活動の充実に役立ててみてください。

蓼科クロージングキャンプ　　杉並5団ローバー隊　稲川 拓海

8月8日から13日、杉並5団所有の蓼科野営場で行われた「団合同クロージングキャンプ」に、私はボーイ隊副長補として参加した。蓼科野営場は1987(昭和62)年にオープンして以降、30年間利用してきたが、今年で茅野市に土地を返却することとなり、今回が最後のキャンプとなった。私もボーイ隊の時代に大変お世話になっており、思い入れの強い野営場だった。

まず8日～11日までは、ボーイ隊の隊キャンプで、私はプログラム担当として参加した。風呂場作りのパイオニアリング、ワイドゲーム等、長期キャンプならではの盛り沢山なプログラムであったが、特に印象に残っているのが２つある。

１つ目は標高2646mの天狗岳登山で、総距離7.5kmを一日かけて登った。途中体調を崩すスカウトがいたものの、先輩スカウトがそのスカウトの体調を気にかけながら、休憩を多めに取ってあげる等、班としての団結を見せてくれた。そして、最後は誰一人欠けることなく登頂出来たことを誇らしく思う。

２つ目は鶏料理コンテスト。各班1羽ずつ鶏を絞め、解体を行った。最初は一歩引いていたスカウトも、いざ自分達の番になると、覚悟を決めたのか、臆している様子はなかった。最後は各班に鶏肉を分配し、味・見た目・独創性の3項目で料理コンテストを行い、リーダーが判定した。ボーイの２班とローバーチームを交えた３チーム戦で行われ、見事に優勝はピカタ・ピーマン肉詰めを作った班で、ローバーチームは本気で挑んだが２位であった。今回の経験はショッキングな場面もあったが、人間は他の命を頂きながら生きていることを、改めて学ぶ良い機会になった。

12日には団合同プログラムのため、各隊スカウトとリーダー、団委員、保護者、ＯＢなど、杉並５団の仲間、総勢80名が一同に会した。まず昼に行われたゲーム大会では、各隊スカウト混合の縦割り班に分かれ、班毎に野営場内に設置された幾つかのポイントを巡り、そこで実施されるゲームに挑戦する形式にした。

各ゲームの内容は、キムス・ネコとネズミ・肩たたき列車等を行った。また、野営場内に宝物として果物を隠しておき、ゲーム毎に集められるキーワードを元に、隠し場所を探してもらった。

夜に行われた恒例の大営火では、杉並５団伝統の「チクサク」で大いに盛り上がった。合同プログラムの企画はローバー隊のスカウトが担当し、キャンプの1ヶ月前から、他のリーダにもお手伝い頂いて準備してきたため、無事終了した時はとても嬉しかった。評価点は、スカウト達が楽しんで参加してくれたこと、他隊スカウト同士の交流、特にローバースカウトが後輩スカウトを積極的にリードしていたことで、杉並５団の絆の強さを再確認した。

今回のキャンプではプログラム担当として、これまで以上に活動の展開を考えながら行動することが出来たと思う。これからも積極的にスカウト活動に参加していきたいと強く感じた。　ありがとう　蓼科野営場　弥栄！

今年は八ヶ岳でみんな大活躍！　　杉並９団　団委員長　浅原 房夫

杉並9団は、井の頭線浜田山駅近くの浜田山キリスト教会を活動拠点にしています。

夏キャンプは八ヶ岳、富士五湖の西湖、朝霧高原の富士山YMCAを3年ローテーションで訪問します。団キャンプではなく、各隊は比較的狭い地域のなかで、年代に応じたプログラムができるキャンプ地を選ぶことになっています。

今年は八ヶ岳周辺で8月10日から13日の3泊4日で実施し、10日は浜田山を貸切バスで出発し、清里の新栄キャンプ場のバンガローで泊るカブ隊が先に降り、ボーイ隊は30分ほど離れた野辺山の青木平キャンプ場で降りました。

八ヶ岳の最高峰赤岳登山をめざすベンチャー隊は、列車で別に出発し、登頂後は長い尾根を降りて、ボーイ隊に合流しました。

カブ隊のキャンプのテーマは「カウボーイ・カブ」で、カウボーイになりきって、森の中に秘密基地を作ったり、謎の悪党と戦いました。ハイキングでは何段にも滝が流れる「吐竜の滝」に行き、清泉寮の美味しいソフトクリームを食べました。

ボーイ隊のキャンプ地は谷川のほとりで、スカウトソングの「谷間のキャンプ」のイメージそのままの野営でした。ベンチャー隊も合流してから地鶏を購入し、自分たちで絞めて鶏料理を楽しみました。また、野外工作物を作り、谷川はロープと滑車で渡れるようにして、上流に遡る沢歩きも楽しみました。

最後の夜は、カブ隊のキャンプ地に集まり、合同の大営火をおこないました。素晴らしいキャンプでしたが、霧や雨の毎日が続いて、楽しみにしていた満天の星空で星座の観察ができませんでした。

来年は、ボーイ隊以上は日本ジャンボリーですが、カブ隊は富士五湖の西湖で、星座観察を楽しみ、竹とペットボトルで作ったいかだで大冒険を予定しています。

ボーイ隊　集合写真

谷川でロープ渡り

力作の野外工作物

カブ隊　悪魔を水鉄砲で退治

カブ隊礼拝　スカウツオウン

吐竜の滝ハイク

秘密基地　１組（左）、２組(中央)、３組(右)

山梨 道志村で連続キャンプ 自然は宝だ！ 杉並12団カブ隊副長 豊川 士朗

元気な杉並12団の中でも、一番元気が良いのがカブ隊です。

現在、カブ隊のスカウトは13名（くま4名、しか3名、うさぎ6名）、リーダー16名の総勢29名で、毎月1回、野外活動を中心に隊活動を行っていますが、そのうち年間4回は舎営のキャンプです。そして、今年度は4回中3回を同じ場所でキャンプし、スカウトたちに季節ごとに大きな変化を見せる自然の素晴らしさを味わってもらうことにしました。

選んだキャンプ地は山梨県道志村。都心からの直線距離は奥多摩とほぼ同じですが、鉄道やバス便などの公共交通が不便で、その分、豊かな自然が残されており、キャンプ地も村内に数多くあります。

道志村内には相模川支流の道志川が流れ、その最上流に近い標高約800メートルの場所にある民宿「ふるさと」をカブ隊のキャンプ地としました。ここで今年度は6月、8月にキャンプを行い、10月にも3回目のキャンプを行いますが、8月17日から20日まで、3泊4日で実施した夏キャンプについて報告します。

まず、初日はバスでキャンプ地に到着の後、再びバスでちょっぴり短めのハイキングコースに向かい、天候の心配もあったことから、早めに宿に引き上げました。

2日目は、村内の中央にそびえ、山頂から富士山が間近に見える標高1208mの鳥ノ胸（とんのむね）山登山を計画していましたが、天気予報では午後から激しい雨のため、急遽予定を変更して、午前中は峠までのミニハイク、午後は廃校となった小学校の校舎を活用した「みなもと体験館」でのバームクーヘン作りに挑戦しました。太めの竹の周りに生地を塗り、回しながら炭火で焼くこと数十回、とってもおいしいバームクーヘンができあがり、スカウトたちは大満足でした。

3日目は、竹を使っての水鉄砲作りのあと、道志川沿いのフィッシングセンターに移動してマスのつかみ取り。魚のつかみ取りはほとんどのスカウトが初めてで、はじめは怖がっていましたが、すぐにコツがつかめたのか、一人で何匹も捕まえるスカウトもいました。捕まえたマスはお店の方に塩焼きにしていただき、おいしくいただきました。

午後は道志川で午前中に作った水鉄砲の射撃大会。スカウトは大興奮でした。宿に戻り、宿の畑で栽培しているピーマンやシシトウ、トウモロコシをみんなで収穫して、夕食はそれらと鹿肉のジンギスカンをたっぷり味わいました。

最終日4日目の午前中は、山梨県の伝統料理の「ほうとう作り」にチャレンジした後、宿の横の林の中にスカウトたちが作ったデンの講評会。昼食はみんなで作ったほうとうを宿の方に調理していただき、おいしくいただいて今年の夏キャンプはフィナーレとなりました。

天候にあまり恵まれず、いつも空模様を気にしながらのキャンプでしたが、スカウトたちはふだん体験できないことを盛りだくさんに体験し、みんなあふれる笑顔で阿佐谷に帰りました。

特集2　海外派遣の報告

アジア太平洋地域スカウトジャンボリー　杉並5団ボーイ隊　関戸　香織

7月26日から8月2日までの8日間、モンゴルで開催された「第31回アジア太平洋地域スカウトジャンボリー」に参加してきました。今大会は「Go　Nomad（遊牧に行こう）」をテーマに、日本からは指導者とスカウト29人（男子18人・女子11人）の合計39人で参加してきました。

会場は首都ウランバートル近郊にあるナイラムダル国際子どもセンターです。標高2,500mに位置していて、東京ドームの500倍以上もの広さがあります。気候は寒暖差が激しく、日中は30℃以上、夜間は15℃位にまで下がり、急なスコールが毎日降るので、とても大変な思いをしました。

出国前の2日間は、日本国内での準備訓練です。参加者は北は宮城から南は大分まで、全国各地からが集まっていて、自己紹介後に班編成が発表され、班名や役務・目標などを決めました。

ジャンボリー会場に到着し、2日目から本格的なプログラムが開始となりました。「ヴェターワールドヴィレッジ」というプログラムから始まり、私の白虎班は平和をテーマに「翼をください」を歌う動画を撮りました。夜には開会式があり、モンゴル語は分かりませんでしたが、音楽には壁がないのだなと思いました。

他にも「カスタムデイ」というプログラムがあり、お互いの文化を紹介し合いました。日本隊は、おにぎり・巻き寿司・葛餅といった食事や習字を紹介しました。

モンゴル文化に触れる日もあり、弓矢や乗馬・モンゴル相撲を体験しました。また、日本隊はオーストラリア隊との交流があり、私の白虎班は日本隊サイトで夕食を振舞いました。

6日目の夜は閉会式。スケジュールの都合で閉会式は1時間位しか出られず残念でしたが、とても楽しかったです。

モンゴルでは、気候や習慣に慣れるのにとても時間がかかりましたが、それぞれのプログラムはとても楽しくて、勉強になるものばかりでした。

海外でのキャンプは初めてだったので、不安や緊張もありましたが、同学年のスカウトもたくさんいて、楽しく過ごすことができました。大会中は毎日がとても長く感じましたが、終わってみるとあっという間の8日間でした。今回得た知識や経験を今後の生活や活動に活かしたいと思います。

このような機会があったら、また参加してみたいと思います。その時には今よりも英語の力をあげて、海外スカウトとのコミュニケーションをもっと取れるように頑張りたいです。

第15回世界スカウトムートに参加　　中野8団 ローバー隊　沼上 志帆

世界スカウトムートは、４年に１回行われる、ローバー年代のジャンボリーのようなものです。

今年は第15回目で、7月26日から8月3日まで、アイスランドで行われました。89カ国5000人以上のスカウトが参加し、日本からは17名のローバースカウトが参加しました。

前半はそれぞれのエクスペディションセンター(サブキャンプ)ごとに、アイスランドの各地でプログラムを行いました。私がいたエクスペディションセンターは、幸いにも日本人が一番多いところでしたが、トライブ(隊)、班には日本人は一人で、アジア人も少なく、英語が苦手な人はほとんどいないため、不安でいっぱいでした。班の人たちは英語が苦手な私にもすごく優しく、たくさん話しかけてくれて、徐々に英語に耳が慣れていき、少しずつ班、トライブになじむことができました。プログラムはアイスランドの自然を満喫する事が多く、東京にいたら見ることのない、きれいな景色にたくさん出会えました。

後半は全てのエクスペディションセンターから１つの会場に全員が集まり、場内プログラムや交流をして過ごしました。そこはまるで何も特別感のない日常の様で、すごく不思議な空間でした。世界ジャンボリーなどとは違うローバー年代の大会だな…という実感をしました。

今まで何回か海外派遣に参加していますが、どの派遣でも複数の日本人がいる環境だったのに対して、隊で日本人が一人になるのは初めてだったので、とても貴重な体験でした。ほかの言語と違い、日本語を話すのは日本人だけで誰も通訳してくれない…ということを実感しました。とても貴重な体験をすることができてよかったです。

バングラデシュで出会った台湾の友達にお互いの旅行を含め、３回目の再会ができ、とてもうれしかったです。今回の派遣でもたくさんの友達を作ることができ、また行きたい国、会いに行きたい人が増えました。国際交流で自分が一番楽しんでいる交換もたくさんできて、またいろいろな物を増やすことができてよかったです。

次回、4年後の第16回世界スカウトムートはアイルランドで行われます。ぜひ、あすなろ地区からも多くのローバースカウトに参加してもらいたいと思います。